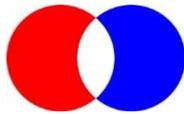


朱色



紺青

目次

- 1 事務局通信
- 2 おしらせ
- 3 大田グループ来名
- 4 トピックス

統括幹事：後藤和晃
事務局
事務局
事務局

事務局通信

사무국 통신

事務局統括幹事 後藤和晃

1. 来春は“池完成 90 周年” 追慕祭を盛大に！ ～韓国・大邱の人々が決意表明～

4 月 8 日の 10 時、韓国・大邱市の寿城池の畔にある墓前で、池を造成し、大邱農民の恩人と慕われた水崎林太郎翁(岐阜市出身)の 77 回忌の追慕祭が行われました。



寿城池

水崎翁の墓は、遺言によって池の近くに造られました。その後「水崎翁は日本人だから、きっと桜の花が見たいだろう！」という人たちの手で、周囲に桜の花が植えられました。

追慕祭の朝は、昨日まで咲き誇っていた桜がいつせいに散り始め、翁の墓は散り積もった桜の花であったかも雪を被ったかのように見えました。

追慕祭に参加したのは、およそ 100 人。地元の大邱市寿城区の人々に加え、元駐日韓国大使や駐ソウル日本大使館の総括公使や領事の他、日本各地からの水崎林太郎の曾孫や墓守りだった故徐彰教さんの友人たちが、数多く駆けつけていました。



様々の障害を乗り越えて、寿城池を完成させた水崎翁が亡くなったのは昭和 14 年(1939 年)でした。故人となって既に 77 年という長い年月が流れたのに、今もなお水崎翁の名を忘れず追慕祭を続けている大邱の人たちに、頭が下がる思いがしました。

今年の追慕祭では、祭事を主催している韓日親善交流協会のイ・ドングン会長とイ・ジンフン寿城区長から注目すべき発言がありました。ご紹介しておきましょう。まず、イ・ドングン会長の挨拶です。



イ・ドングン会長

「水崎林太郎先生の業績を称えるため、韓国ばかりか日本の各地からも多くの方々に参加して頂き、心から感謝申し上げます。(中略)日韓両国間の近代史には、光輝いた短い時間と暗闇に閉ざされていた長い時間があったと言えます。

しかし、その歴史も見方を変えてみると、暗闇の後には必ず明るい光が戻ってくるという真理を語っているように見えます。受け入れることが難しい過去の出来事も、いったん勇気を出して相手を抱擁することが出来れば、素晴らしい未来が訪れ、韓日両国は光り輝く共生の歴史を歩み続けることが出来ると信じています。

寿城池の築造にあたって、幾多の障害を乗り越えて遂に池を完成させた水崎林太郎先生の生きざまに学びつつ、韓日友好の道を民間交流を通して少しずつでも築いていこうではありませんか?! 来年は寿城池の完成から、まさに 90 周年という節目の年に当たりますので、意義深い追慕祭を盛大に行いたいと考えています。ありがとうございました！」



イ・ジンフン寿城区長

自らを知日派というイ・ドングン会長の誠意と勇気のもった発言には、満場の拍手が湧いていました。続いては、イ・ジンフン寿城区長の挨拶です。

「水崎先生は、1924 年(大正 13 年)に、この地で朝鮮人 4 人の仲間と共に、大邱の水不足を抜本的に解消しようと寿城水利組合を設立しました。そして、朝鮮総督府はじめ地元の人々の理解を得るべく奔走、様々な困難をのり越え、1927 年(昭和 2 年)4 月 27 日に遂に寿城池を完成させました。(中略)寿城区としては、寿城池完成までの水崎先生の奮斗など正しい歴史を伝えるため、水崎先生の墓地を含めたテーマ公園を造りたいと考えています。

池が完成してから 90 年という来年の追慕祭が、いっつもに増して盛大に行われ、韓日交流に弾みがつくよう私たちも努力いたします！」

イ・ジンフン区長は、この様に将来、寿城池の一面を韓日友好交流の拠点にする意図もこめたテーマ公園にしたいと発言、大きな拍手を受けていました。



2. 第19回日韓市民ネットワーク・なごや総会の報告 ～3月6日・名古屋国際センター～

3月6日、会の第19回目の総会を開きました。この総会と2月に行った新春交流会の双方で、事務局の後藤が皆さんにお話した内容を、まず紹介させて頂いた後、総会で決定した事項を掲載させていただきます。

私は、概容 次のようなことを申し上げました。
「会が発足してから、なんと19年目の春を迎えることができました。日韓の間に政治的な緊張感がぬぐい切れず漂っている昨今ですが、こんな状況下でも、私たちの会が存続し続けていられるのは会員の皆さんの献身的なご協力があってこそと感謝しています。

さて、最近の日韓関係をよく象徴している数字があります。それぞれの国を、どれだけの隣人が訪問したかを表す数字です。昨年、韓国から日本を訪れた観光客は、なんと400万人の大台を越えました。韓国の人たちは余り政治的な緊張感を抱いていないように見えます。

その一方で、日本からの韓国を訪れたのは半分以下の183万人にとどまりました。韓流ブーム華やかな

りし頃は、1年に350万人もが韓国を訪問していた訳ですから、当時と比べれば、半減の有様です。もちろん、この極端な人数の差を、円安が影響したからという見方で説明する人もいます。

しかし、一部には円安要因もあるもののズバリと言えば、日韓の間にわだかまる慰安婦問題などを背景に嫌韓気分にとらわれている人々がかなり増えてきて、韓国に行きたい人たちの行きたい気持ちにブレーキをかけているように見えませんか？

皆さんご存知のように相互理解を進めるためには、お互いが相手の懐に飛び込んで、その国の文化や民族性をよく知ることが一番の早道だと思うのです。様々な政治上の問題はあるとしても私たち日韓市民ネットの会員は率先して、韓国を訪問したり交流団を迎えたりと、民間交流の果実をあげて行きたいと思えます。今年もよろしくご協力ください」と。以下、総会での決定事項です。

日韓市民ネットワーク・なごや

第19回総会次第

日時：2016年3月6日 午後3時
場所：名古屋国際センター
3F 第2研修室

1. 開会
2. 2015年度事業報告
3. 2015年度会計報告
4. 2015年度監査報告
5. 2016年度組織表（案）
6. 2016年度事業計画（案）
7. 閉会



2015年度 事業報告

日韓市民ネットワーク・なごや

年	月	日(曜)	行 事	備 考
2015	4	10(金)	韓国・大邱市 水崎翁追慕祭に訪問団	遺族、会員ら参加 大邱関係者らと交流
		11(土)	韓国・大田市の弘道塚に参拝団	引揚者・会員ら参加 大田関係者らと交流
		22(水)	韓日歴史文化フォーラム テーマ 大戦後 韓半島の庶民の暮らしは?	講師 伊藤亜人 氏
	5	23(土)	交流史講座 「古代の九州北部地方」(1) テーマ 新羅・伽耶と九州北部の絆	講師 日比谷高校教諭 武井一 氏
	6	27(土)	交流史講座 (2) テーマ 九州北部に見る渡来文化(上)	講師 海の道むなかた館 館長 西谷正氏
	7	25(土)	交流史講座 (3) テーマ 九州北部に見る渡来文化(下)	講師 海の道むなかた館 館長 西谷正氏
	9	26(土)	交流史講座 (4) テーマ 新羅神が来た道	講師 日比谷高校教諭 武井一 氏
	10	24(土)	交流史講座 (5) テーマ 宗像信仰と大和朝廷	講師 宗像大社 学芸員 福島真貴子 氏
		24(土) ～25(日)	2015ワールドコラボフェスタに参加 ～名古屋・栄～	2日間にわたりブース出店 新会員数名加入
		31(土)	日韓交流大野遊会 ～犬山市・八幡自然林～	留学生30人など総勢72人参加
	12	4(金) ～7(月)	北九州北部紀行 船原古墳、宗像大社、英彦山、宇佐神宮など	27人参加
	2016	2	7(日)	日韓市民新春交流会 ～名古屋・名駅前～
3		6(日)	第19回総会	

日韓市民ネットワーク・なごや 2015年度 会計報告書

自 2015年1月1日 至 2015年12月31日

収入の部		支出の部	
前期繰越金	429,128	通信費	76,229
会費	285,000	印刷・コピー代	55,390
		事務用消耗品費	81,655
寄付金	217,996	日韓交流関係費	109,365
		ホームページ運用費	23,240
預り金(寄付金)	269,000	会議・会場費	31,120
		協力者謝礼	63,350
受取利子	183	交通費	13,220
		次期繰越金	747,738
計	1,201,307	計	1,201,307

- * 預り金 269,000円 慶北大学学生来訪寄付金として 韓国国内MERS流行のため中止
- * 会費内訳 会費 70名 280,000円 準会員 1名 3,000円 学生会員 1名 2,000円
- * 次期繰越金 内訳 747,738円 郵便貯金

2015年12月31日 上記の通り報告いたします。

会計

岡本弘恵 

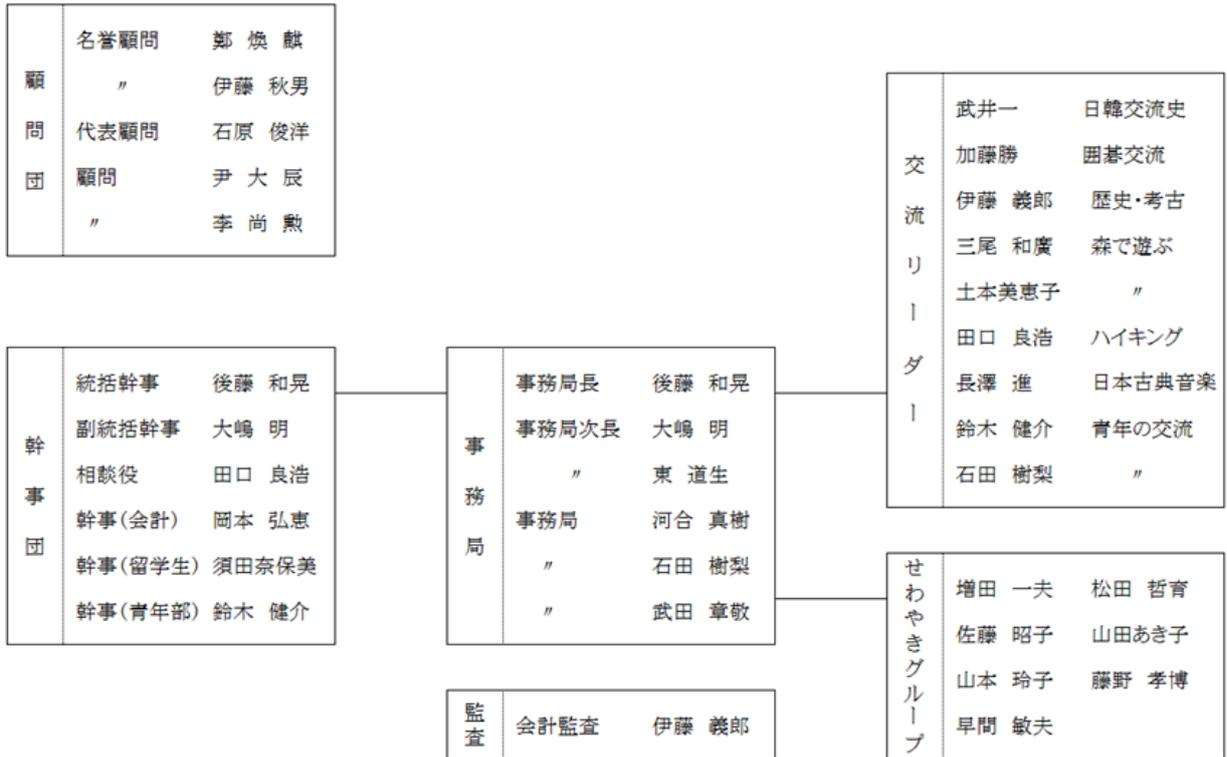
監査の結果、正確であることを認めます。

会計監査

伊藤義郎 

2016年度 日韓市民ネットワーク・なごや 組織表

日韓市民ネットワーク・なごや



2016年度 事業計画

日韓市民ネットワーク・なごや

年	月	日(曜)	行 事	備 考
2016	4	8(金)	韓国・大邱市 水崎翁追慕祭に参加	参加者 後藤統括幹事、九州・神戸在住関係者
		14(木)	韓国・大田市の職員訪問団と交流	参加者 大田ゆかりの日本人関係者ほか
		27(水)	第44回韓日歴史・文化フォーラム テーマ 蘇我氏の渡来とその影響	講師 高麗大名誉教授 金鉉球 氏 参加者 160名
	8	4(木) ～8(月)	韓国・大邱市学生交流団を招待 ～奈良旅行プレゼントとホームステイ～	慶北大 朴天秀教授 他学生15名招待予定
		27(土)	日韓交流史講座 "文祿・慶長の役で渡来した群像"(1) テーマ 文祿・慶長の役の全容とその影響	講師 日比谷高校教諭 武井一 氏
	9	17(土)	日韓交流史講座 (2) テーマ 渡来した陶工たちの400年	講師 元西日本新聞記者 山本康雄 氏
	10	15(土)	日韓交流史講座 (3) テーマ 多彩な分野で輝いた渡来者たち	講師 日韓交流史研究家 嶋村初吉 氏
		22(土) ～23(日)	2015ワールドコラボフェスタに参加 ～名古屋・栄～	
		29(土)	日韓交流大野遊会 ～犬山市・八曾自然林～	
	11	下旬	日韓交流史紀行 テーマ "渡来陶工の里"縦断紀行 ～唐津・伊万里・有田・佐賀・熊本・鹿児島～	同行講師 西谷正、山本康雄 など
2017	2	始	第20回総会・日韓市民新春交流会	

3. 大田市職員ら来名・交流 ～戦前の歴史遺産を守りたい！と～

4月14日、私たちは韓国大田(テジョン)市から近代の文化財保護などの活動をしているメンバー4人を名古屋国際センターに迎え、活動内容を聞くと共に交流会も行いました。4人は、大田市職員で文化財関係の仕事を担当しているコ・ヨンスさんやアン・ジュンホさんそれに大学教授で建築の歴史を調べているイ・サンヒさん等で、大田近代史アーカイブスフォーラムという団体に参加しています。

14日は、一行を代表してコ・ヨンスさんが戦前の大田で日本人が建てた極めてモダンな住宅がアパート団地建設で取り壊されそうになった時、危機一発の状況から救いだし、建物を移築再建したことを報告しました。



移築再建された渡辺邸 (愛称トンガリ屋根の家)

問題の建物が建ったのは1928年(昭和3年)、建主は前の年まで朝鮮総督府・鉄道局の幹部だった日本人・渡辺岩治氏でした。建物が建ったのは、当時の朝鮮でも優良校として知られていた大田中学校の近くで、当時から大田を代表するモダンな西洋風住宅として有名になりました。



戦前の渡辺邸



渡辺岩治一家の家族写真

終戦後、渡辺さん一家は日本に引き揚げますが、その後を受け継いだ韓国人は、私たちの会員で故人となった大田からの引揚者、大久保舜司さんや中井康雄さんの同級生である、朴英圭さんの知人の友人だったそうです。

戦後の大田は、大田万博の開催地になるなど膨張を続け、民家を取り壊してアパート団地が各地に建設されました。そんな団地建設の嵐が吹き荒れる中で、くだんのモダン住宅も危機を迎えます。コ(高)さんたちは、この建物は、近代大田の歴史遺産だと訴え文化財指定を勝ちとりました。そして業者が一方的に取り壊しにかかった時には、工事中止の行政命令を出して建物を保護、その後、近くの市有地に移設し、保存することに成功したと言います。最近、渡辺岩治氏の曾孫にあたる女性が建物を訪れ、保存までのいきさつを聞いて涙ぐんでいたそうです。



渡辺氏の曾孫の女性 (水野恭子さん)

大田のアーカイブス・フォーラムのメンバーは、大田駅の東側の蘇堤洞に40棟も残る鉄道官舎群も大田の発展史上の遺産として1棟でも残すことができないか話し合っているといえます。この鉄道官舎群は、私たちの会員で大田機関庫の職員を父に持った故人の中井康雄さんも住んでいた所です。事務局の後藤も、この4月8日の大邱での水崎翁追慕祭を終えた翌日、大田駅裏の元鉄道官舎群を見て「確かに、貴重な歴史の証人だから、なんとか一棟だけでも渡辺

氏住宅のように保存できないか…」と思ったものでした。

来る2017年4月に大邱での水崎追慕祭が盛大に挙行されることになれば、私たちも会を挙げて参加した後、大田にまで足を伸ばして大田の鉄道遺産として元鉄道官舎、渡辺家住宅、さらに、日本人の遺骨を収めた弘道塚などを歴訪したのち、アーカイブフォーラムのメンバーを激励したらどうかと考えています。



大田グループの報告会



元鉄道官舎郡（樹木の背後のビルが大田駅）

編集 応援（非会員）中川修介